

新幹線プレス

2017年5月2日 No.349

発行者 成田隆浩

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

経営協議会報告・・・Ⅲ

交番検査の周期延伸後の作業時間が足りない！

交番検査の周期延伸が実施され、一日3本、210分から140分になり作業時間が足りないという問題が発生しています。会社は、点呼時間の短縮や、運転台担当者をA交とP交で変更するなどしてきました。さらに3月から断路器の投入タイミングを早めたり、作業手順の見直しを行っています。これらの作業見直しは、時間短縮のための対策なのです。

会社は、「最適化のため。必要な見直しは今後もやっていく」と回答し、未だに検査体制が確立されていないことが明らかになりました。また、下回りで後確認中の断路器投入は安全上問題であると見直しを求めましたが、会社は「安全上問題はない」という認識であり、対立に終わりました。

仕業検査の請負業務と直外区分が曖昧だ！

仕業検査の体制見直しは、二年のうちに3回も再見直しがなされてきました。これは偽装請負対策のためなのです。しかし、そういうことが車両所の中で社員にもSEKの側にも明確にされていないため、請負業務の直外区分が曖昧となり、どちらの作業か迷うような事が発生しているのが現実です。管理者の中にもそういう現実があり、もう一度はっきりさせるべきであると改善を強く求めました。

会社は「従来の方法でも法的に問題はない。役割分担を明確にするために変えた」と従来の回答に終始しました。組合から、以前の仕業検査でも問題ないのであれば、現在の複雑な連絡体制を解消して以前の仕業検査体制に戻すことを求めましたが、会社はうけいれませんでした。

新たな全検・台検の周期延伸計画は問題だ！

会社は全般検査、台車検査の周期延伸に向けた走行試験を行うということをお知らせとして組合に明らかにしましたが、車両の安全をどう担保するのか、また、乗客に事前に説明するべきではないのかと質しました。会社は「過去三年の検修実績、状態を分析して、部外の有識者もふくめて、届け出も問題ないということ判断している」と答えました。

交番検査周期延伸の際、有識者会議の議論内容については一切明らかにされずに実施されてきました。今回計画の周期延伸も効率化ありきのものであり、安全上の問題を含めて問題であることを主張し、申し入れ等について対して真摯に協議することを要請しました。

安全と健康を脅かす検修の効率化反対！